

八 胸の悩み なや

ライムの市は^{まち}大層な人出でございました。代々^{だいぐ}の佛蘭西王^{フランスわう}は、皆この地^{そくめしき}で即位式^あを擧げられるのが慣例になつて居りましたので、今日しも行はせられる、シヤルルの戴冠式を見ようとする人達^くが、村の遠い近いに係^{かい}はらず、みなライムをさして出かけて來^くるのでございました。辻々^{つじく}には常盤木^{ときはぎ}をもつて緑門^{アーチ}がたてられ、家々の檐に國

旗は翻ひるへつて、意匠いしやうを競ふ各々の裝飾は、市民が精一つばいの祝意を現はして居りました。祭典おこなを行ふ寺院の鐘は鳴り出しました。

これまで英吉利の權勢けんせいに脅おびかされて、ヘンリイの佛蘭西王たることを認めてゐた人達も、今新しく正統な佛蘭西王を戴くべきことを、心から喜びました。長い間望んでやまなかつた平和も、やがて得られるでありませう。して、佛蘭西を救ひ國王たすを援けて、その平和を齎もたらした、ジャンヌの功績を稱賛しょうさんすることを、人々は決して忘れませんでした。至るところにその戦勝の噂は高く、至るところにジャンヌの功は稱たへられました。人々は美しく晴着を着飾つて、彼等の眞正な國王に見え、神の使つかひのジャンヌを見ようと、ライムの街に群が

り來ました。

その群集に揉もまれく、なるべく寺院の近くに寄らうとあせつてゐる一連つれがありました。これもわざく在所から出て來たものらしく、中に交まじつた二人の娘をいたはりく、人波をかきわけて歩いてゐるのでございました。

『あれ、あの音楽を聞かつしやい、行列はもう出られたのかも知れませんが。なんともつと善い工風くふうがないものかな、露台ろだいの上にも上のぼらうか、それともこの人垣をかき分けてもつと前へ出ようかとにかく行列を隅から隅まで見落してはなりませんわい。』

『いやくあまり氣を揉むと、かへってわるからうぜ。何しろ大たいへ

んな人出なもんぢや、市中は馬や馬車で一つばいで、爪もたつことぢやないわ。やつぱりこゝらにぢつとしてゝ、お通りを見た方がよからうぜ。』

『かう見渡したところは、まるで佛蘭西の半分も集まつたかと思はれるやうぢやなあ、それもさうだらうわい、あの遠いロトリンゲンくん dari から、ぞろ／＼ぞろ／＼やつて来るんだからな、さういふわし等も、やつぱりはる／＼やつて來た連中ぢやが、ハ／＼／＼』
『けふ日、不景氣な顔で家にすつ込んでるやうな奴あ、まあ病人位なもんぢやわい。國のまつりに出掛けても來ず、萬歲の一つも言はんやうな奴あ、それあ不忠者といふもんぢや。』

『もしお姉様^{あねさま}、わたしは、あのジャンヌに、もう一度逢^あはれること
かと思ふと、なんだか夢のやうでなりませぬ。ほら、わたしの胸は
こんなにどきくと動悸^{どうき}がして……………」』

『立派な着物を着て、「わたしはお前の妹の、ジャンヌでございま
す。」というて、來るでございませう。』

『だけど、これが眞實^{ほんとう}のこととでございませうか、あのオルレアン^{をとめ}の
少女といはれる人が、ほんとにあのうちのジャンヌでございませう
か？ わたしはどうも、ほんとに逢^あつてみるまでは、嘘のやうな氣
がしてなりませぬ。』

『おまへはまだ疑^{うたぐ}つておいでかい？ おつつけうちのジャンヌに

お逢^あひであらうのに。』

『やれく、益々^{ますく}人が殖^ふえて来るわい。こりや押^おすなく。や！
あの音楽は、もう行列が来るのぢやないか？』

それらは、ドムルミ村からはるく出て來た、ジャンヌの姉達と、
その村人とでございました。

行列を待ちわびる群集のどよめきに包まれて、今日の式場の寺院
からは、嚙^{りうりやう}吮^ねとした音楽の音が洩^もれてゐました。

圓柱^{ゑんちゆう}は、悉く花環^{ことぐはなわ}で飾られ、小さな無數^{こくき}の國旗は限りもなくひき
渡されて、高い天井と、奥深い廣^{ひろ}さの常^{つね}にものさびたのも、今日の
祝典のために美しく飾りつけられた廣間^{ひろま}は、式の準備に氣を取られ

ひとたち

た人達によつて、忘れられたやうにも寂しく静まつてゐました。

ひとけ

その人氣のないのを選んで、ジャンヌはたゞ一人、そこに入つて來ました。

おもやつ

ジャンヌの顔は面癩れがしてみえました。きのふまでの、生々と

輝いてゐた眼は、絶えず何ものかを追ふやうによどみ、こまぬいた

はげ

腕は力なげにその吐息を抱いて居りました。國民は烈しい歡喜に燃

くわんき

わ

え、感謝の念に湧きかへつて、今日の盛典を祝つて居るのに、その

を

喜びをつくつたジャンヌは、如何にも胸の悩みに堪へ切れぬやうに、

ひろま

その廣間のうちをあちこちとしてゐるのでありました。

がく
ね

樂の音は流れるやうに漂つてゐました。澄んだ笛の音が、ちよろ

ちよろと流れる谿川たにかわの調べしらの様に聞かれるのにつけても、ドムルミ
村の平和を唱うたふ水車の響ずみきが、再びジャンヌの耳よみがへつに 甦よみがへつて來るので
ございました。あゝ、やさしくも羊を牧かつたその杖つゑよ、それを血を
このむ劔つるぎに代へることがなかつたならば！ あゝ神のみ姿よ、尊き
みことのりにこの少女をとめを召させ給はなかつたならば！ もしまた、
少女の心の清よさを選らせ給たまふものであつたなら、永久に汚けがれぬ力を
この少女に授さづけ給ふべきであつたのに！ この世のものを見、地上
のものに感じやすき瞳ひとみをもつ少女を、あゝ、神は何故つかひみ使えらに選ませ
給ふたか！

ジャンヌの胸は、悲しみに閉とざされました。假かりにも神を恨うらみ、

わが使命を悔^くいることの罪に氣づいては、罪に罪を重ねる胸の重さが、一しほジャンヌのうけた心の傷を痛^{いた}ましめました。惱^{なや}ましい思ひは止^とめどもなく、血にまじつてその身うちを環^{めぐ}りました。神のみ意^{こゝろ}にそむくその思ひよ、得^えようとして得、思はうとして思ふ悩^{なや}みではないけれど、罰^{ばつ}はジャンヌそれ自身の苦惱^{くるしみ}のうちにありました。

妃^きのアニエ・ゾレエは、今日の喜びに氣もいそぐとして、先刻^{さつご}からジャンヌを尋^{たづ}ねてゐましたが、今この森閑^{しんかん}とした廣間^{ひろま}のうちに、首をうなだれてそちこちしてゐるジャンヌを見つけました。

思はずジャンヌを抱^{いだ}かうとして我にかへつたやうに、『おい、まあおさそうを……………』と、アニエ・ゾレエはそこに跪^{ひざまつ}かうとするの

でございました。ジャンヌがそれを扶たすけ起おこさうとするのを拒こばんで、『どうぞおとめ下さいますな。かうしてあなたの足下あしもとに、跪ひざまつくと申まをしますのも、つい嬉あましさが餘あまつてのことでございますもの。あなたを見ますと、かうなるとなく、目に見えぬありがたいお方に會あふやうに思はれるのでございます。ほんにあなたは天のお使つかひ、つい夢にさへ見ようとは思はなんだ今日のお即位式そくみしきも、みんなあなたのお力でございました。陛下には美しう飾かられて、間もなくお見えになるでございませう。多くの貴族方は、徽章きしやうをお持ちをなさるために、みな御參會ごさんくわい下さいますさうな。あれ、まあお聞きなさいませ、市民はお祝ひの歌うたを唱うつて居りまする。ほんに もうわたしは嬉しくて

く……………」

ジャンヌは静かにアニエ・ゾレエを扶たすけ起おこしました。その、心を籠こめての感謝の言葉も、今はかへつてジャンヌに、心苦しい思ひをさせるばかりでございました。

『かうして、皆の者の喜びをお作り下さいましたあなたは、またどうしてそのやうに、思ひ沈しづんばかりおいでなのでございますか？
天の光榮さかえばかりを御覽ごらんじて、この人の世の幸福は、あなたの清淨なお心を動かすことが出来ないのですございますか？』

ジャンヌは、思はずアニエ・ゾレエの手を握りしめて、急にまた思ひかへしたやうにその手を放はなしました。

『あなたは、女の感じやすい情こころを持つておいでゝございますか。まあともかくも、どうぞその鎧よろひをお脱ぬぎ下さいませ、おかげでもう戦いくさもすんでしまひましたほどに、一層いつそうお優やさしい心をわたしに示して下さいませ。』

『何をわたしにお求めなさるのでございます？』

『その鎧をお脱ぎ遊ばしませ。愛の女神は、そのやうな鐵くろがねの鎧かこに隠かくされた胸には、なか／＼恐れて近寄ることが出来ませぬ。あなたも今に、女らしく、愛の神が力をお悟りなさるのでございませう。』

『この鎧をぬげと仰言おつしやるのでございますか？ いゝえ／＼白刃しらばの光る戦場うでなら、討うたれて命をおとさうために、この胸をさらしもし

たしませうが、今となつては猶さらのこと、どうして／＼、この胸を、七重にも八重にも鎧ひたいやうでございます。』

『名譽と義理と、その外のどんなことにも氣をとめぬ、氣高い御氣象のあのデュノア伯爵が、あなたのおために、どれだけの心遣ひをなされてゝございませう？さうしてそれは、女にとつて第一番の幸福ではございませぬでせうか？さうしてまた、そのお方を、眞心こめてお愛しなさるならば猶さらのこと、それに越したお仕合せはないことでございます……』とアニエ・ゾレエは言ひかけてジャンヌが忌々しさうに眉をひそめたのを見ました。『あ、もし、あなたはおいとひなさるのでございますか？いえ／＼、たゞ必と、

お愛しなさることが出来ないまでいございませう、どうしてあのやうな方をおいとひなさる筈はずはございませぬもの、みんなの人が等しく愛する人を、嫌ふ人こそ、わたしは厭いとはしう存じます。まゝそれはそれとして、誰一人、あなたを愛することが出来ませぬとは、あんまり冷たいお心ではございませぬか。』

『あゝもう、なんにも仰言おつしやつて下さいますな、わたしの冷たい運命に、どうぞ泣かして下さいますな。』

『どうすれば、あなたをお喜ばせすることが出来るのでございませう？ 今度の戦ひで、あなたは、あなたのお誓ちかひをみんな爲なし遂げられ、佛蘭西國は自由になり、陛下にはライムに入いらせられました。

そのお功績をまあ何に譬へたらよろしうございませう？あなたの
おん名は、人々の口々に名譽のしるしと稱へられ、丁度、天の神の
やうに、天下の民から尊ばれて居るのでございます。あなたは今日
の祝典の女神でいらせられまする。』

『あゝ、わたしは、この地の底深く隠れたいやうでございます……

……』

『まあ何故そのやうなことを仰言います？今日あなたがそのやう
にさし俯いておいでゝございましたなら、誰が一人顔を上げること
が出来るのでございませう。ものゝ數にもならぬわたくしなどは、
かうしてあなたのお傍に近よるのさへ、お羞しいのでございます。

また、勇氣は猶なほさら、貞操みさはといひ、何といひ、わたくしなどの、到底およ及ぶところではございませぬ。佛蘭西が得ました名譽や、また勝利の喜びや、それらのものに、何一つとして、わたくしの力はあづかつて居りませなんだ。けれど、たゞ一つ、この胸の奥深くに秘ひめられて居るものがございます。それこそわたくしの一つの神像、わたしはそれによつて生きて居るのでございます。それは、眞心のこもつた、わたしの愛に外ならないのでございます。』

『あゝ、あなたはほんとにお幸福しあはせでいらされます。すべてのものが愛するところを愛し、胸をひらいて、何事もお隠しにならず、憚はじかるところなく、よろこびを人の前にお示しなさいます。國の喜びは

あなたのお喜び、そしてそれはまた、あなたがお愛しなさる方のお喜びなのでございます。こゝに集る人は、あなたと共に喜んであなたを祝し、花環はなわを編あみます。あゝ、あなたは、よろこびの源みなもとを愛していらせられるのでございます。今日、あなたがおん目に見、お耳に聞くものは、みな、あなたがお愛しなさるおん方かたのお榮えさかでございませう。』

『おゝ！ あなたはわたしの胸のうちを、よくお見ぬき遊ばしました！ 愛といふものを、さうまでよくお知りなされたお心を、わたしは今まで誤解いたして居りました。これから、何ごともあなたのお胸にお頼りいたしますでございませう。』

アニエ・ゾレエは、優しいその手をジャンヌの首の廻りに置きま
した。

自ら心みづかに深く恥はぢてゐるジャンヌは、優しいその仕打ちがかへつ
て堪たへられないやうに、強しいてその手を解かうとしながら、『どうぞ
あちらへお入いり下さいませ。こゝに長くおいでなされて、きたない
わたしの心にお染しみ遊ばされてはなりません。さあ御機嫌ようあち
らへ――あゝ、わたしのこの恐怖おそれは！』

ジャンヌの胸は、審判さばきを待つ間の恐怖きようふに慄ふるへてみました。

常と變かはつたジャンヌの解げせない容子ようすに、アニエ・ゾレエが目みを睜は
つた時、デュノアを先にたてゝ、ラ・ヒイルやヅ・シャツテルが、

ジャンヌの旗を持つて入口のところに現あらはれました。

『あ、こゝに居せんごくられましたか、先刻せんこくから随分ずぶんお尋ねたづねいたしました。準備はすべて整ととのひましてござります。ジャンヌどのは、この御旗みはたを持たれて、陛下のおん前にたゞせられるやうにと仰おほせでござります。さあ御用意なされませ。』

『えゝ？ あのをたくしがこのお旗を持つて、陛下のおん前に立つのでございますと？』

『如何いかにも。あなたでなくて誰がこの聖旗せいきを持たれませうか、あなたの神聖な手を外よそにして。』

『どうぞ、あちらへそれをお持ち下さいませ！』

ジャンヌは叫びました。その眼は不安さうに聖旗を見つめて、顔色は青褪め、兩の手先はふるぐと慄へて居りました。

『やゝ、どうなされました？』

『おゝ！……………わたしを凝視しておはします……………御額には皺を寄せられて、怒のおん面ざし……………あゝ恐ろしい。わたしを罰し給はうとの御來降でございませう、さあ、誓ひを破り、清淨なるおん名を瀆したジャンヌを、どうなりとお罰しなされて下さいませ！』

人々の驚きと、恐怖とを吸ひ取つて、化石したやうに、ジャンヌはそこに立つてゐました。

樂の音は變つた調べとなつて、はるかに聞えて來ました。と、一度その時、何事について起つたのか、市民の歡呼の聲が、ゆるいどよめきとなつて、この廣間のうちに流れ入つて來ました。

暫くにして我にかへつたジャンヌは、人々に扶けられて、猶豫もなく迫つた行列に加はるために、恐る／＼その聖旗を手にしました。

【入力者注】（頁行は底本のもの）

162-10 アニエ・ゾレエは ↓ アニエ・ゾレエは

公開：令和三(2021)年九月四日
改訂：令和五(2023)年三月七日